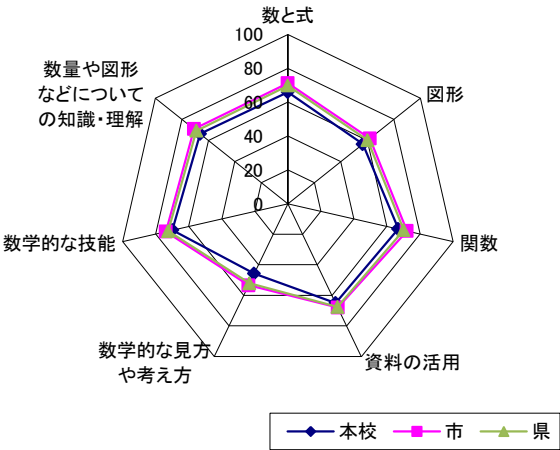


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	65.9	71.2	69.8
	図形	56.5	61.9	60.2
	関数	66.8	72.1	70.1
	資料の活用	65.0	68.0	67.6
観点	数学的な見方・考え方	45.8	53.4	52.1
	数学的な技能	69.9	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	66.2	70.8	69.1



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正の数・負の数の正答率は87.0ポイントで、県の平均正答率より0.8ポイント上回っている。その中で、「正負の数の四則計算ができる」に関しては、2.2ポイント上回った。 ●文字式の正答率は57.8ポイントで、県の平均正答率より5.9ポイント下回っている。その中で、「文字式で同類項をまとめることができる」に関しては、10.1ポイント下回った。	・授業開始時に小テストを取り入れ、問題を多く解くことや週末課題などで計算プリントを活用し、基礎計算力の向上につなげる。
図形	○空間図形の正答率は58.4ポイントで、県の平均正答率より3.0ポイント下回っている。その中で、「円柱の展開図から、その側面積を求める式を選択することができる」に関しては、昨年度より10.9ポイント上回った。 ●平面図形の正答率は51.9ポイントで栃木県の平均正答率より5.2ポイント下回っている。その中で、「対称移動、回転移動を組み合わせた移動のあと、重なる三角形を選択することができる」に関しては、7.3ポイント下回った。	・平面図形の移動や空間図形など、デジタル教科書等の視覚的教材や立体、展開図などの実物教材を活用した授業を行い、理解が図れるようにする。
関数	○比例・反比例の正答率は66.8ポイントで、県の平均正答率より3.3ポイント下回っている。その中で、「点の座標を読み取ることができる」に関しては、昨年度より55.5ポイント上回った。 ●「反比例の関係を表す表を選択することができる」に関しては、8.2ポイント下回った。	・式、表、グラフを別々に扱うのではなく、式から表やグラフ、表から式やグラフ、グラフから式や表を表せるように、それぞれの関係を意識した指導を心がける。
資料の活用	○資料の活用の正答率は65.0ポイントで、県の平均正答率より2.6ポイント下回っている。その中で、「度数分布表から、長いほうから数えて5番目の生徒が入る階級を求めることができる」に関しては、0.1ポイント上回った。 ●「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」に関しては、6.9ポイント下回った。	・日常生活と関係がある資料を用いて整理を行い、生活との結びつきを意識しながら、整理した情報は何を意味しているのかを説明し合う学習を取り入れる。